

住ま

* 家族が減った不安

久々に会った友人が「夫が出張なので」とそそくさと席を立った。「外に干してきた洗濯物が気にかかるといふ。洗濯物が濡れることよりも、留守であることがわかってしまうのが嫌なのだ。家族が大勢いるときには考えもしなかったが、2人暮らし、1人暮らしになると、一戸建て住宅の無防備さを痛感する。

洗濯物や新聞受けを見れば在宅かどうかかわかり、家族構成まで想像がつく。リフォーム時に、不在をわかりにくくする対策として取り入れやすいのは、照明を設定時間にオンオフでき

Let's リフォーム

西田恭子

家守る対策してこそその都会暮らし

るタイプにすること。配線はそのまま、スイッチか照明器具を交換するだけだ。少し大がかりになるが、

雨戸を電動シャッターにする、開閉時間を設定できる。出先から携帯電話で、設備機器のオンオフや施錠の確認ができるシステムもあるが、まだ一般的とは言えないだろう。

簡便な対策として、家の周りに防犯砂利を敷き詰める人もいる。足音がじやりじやりとして人の気配がわかり、泥棒が退散すること

を期待している。



取り外し可能な壁面に取り付け、玄関内側には大受けボックス

物にも対応できるものを。1人暮らしの女性のご要望で、玄関に特大サイズの郵便受けを作ったことがあり、本や雑誌がまとまって届いても、外にあふれなくなつたと大変喜ばれた。

今の暮らしに欠かせない。設置スペースや盗難の

リスク、ボックスへ配達をしない品目もあることなどをよく確かめておきたい。

プライバシーの確保といつても、高い塀で周囲の視線をカットするのは防犯上は逆効果。むしろ窓や出入り口が外部から見渡せる方がよいとされる。家の中も同じで、玄関やアプローチ、ほかの部屋の気配が分かった方が安心だ。ワンル

ームの広いLDKや対面式キッチン、家族が少ない場合も有効といえる。

家を守る対策をしてこそ外に打って出られるのが、どうやら都会暮らしであり、少人数で暮らす人の秘訣のようだ。

(三井のリフォーム 住生活研究所所長、1級建築士)